

# 木と共に生きて

## 細田安治

15

### ツギ板の先にあったもの

細田木材工業が集成材に参入したのは1957年(昭和32年)である。動機は「いえは、職父の信条とする第一、我々は天の恵みである木材を社会の役に立てる使徒であることを自覚しその使命を語りとする」。この同時期に始めたツギ板の延長が発想の原点である。

当時、日本建築の主流は和室であった。和室造作材の王様は、鴨居の上と部屋を見下ろすように、そして引き締まるように長押がある。これがムクではもったいない。二丁から二丁しかとれない、これを何とかしてたくさん作れないかとの発想から造作用長押を開発した。

資源の節約、美観、技術の向上によるコストダウン、これらが相乗効果をもたらす、造作用集成材、張り長押は爆発的ブームが起った。

### 化粧板の開発

化粧板は、金メッキの金に相当し、正に集成材の顔である。この化粧板の長し厚しにより価値が決まってくる。業界では、化粧板用の原板の入手とコストダウンにしのぎを削っていた。

スライサーを使えないかと思いつき、試行錯誤の末に成功、大きくコストダウンに寄与した。業界の走りであり、以後は新しいスライサーが開

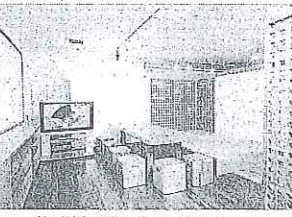
発された化粧板単板の大幅なコストダウンに貢献した。

しかし、当時は知識不足で、接着強度の問題などがあつて集成材はブームであつたが、一方で品質問題を抱え、またムクに対する貼りものと蔑視され、品質に一抹の不安もあり、頭打ちの状況を迎えた。

### 日本集成材工業会

1963年(同38年)9月、志を同じくする全国の集成材業者が集まり、正しい集成材の知識と需要拡大を目的として日本集成材工業会を設立した。これが、現在の日本集成材工業協同組合の始まりである。私はこの時代、現場の責任者として、技術者として、集成材業界の立ち上げに努めた。

## 集成材製造への進出



集成材を利用したリフォーム相談室(細田木材工業)

84年(同59年)の総会で監事として指名を受け、組合の財政基盤の確立に努めた。その4年後の総会で理事に指名された。

当時、日集協では知名度や技術の向上、品質の確保情報の共有、集成材の正しい知識とその普及を目的として、業界の発展を目指して、を旗印にして全国各地に懇談会を立ち上げ、集成材の普及宣伝に努めた。人々の理解を得るための普及宣伝を使用した建物を撮影したカレンダーを作

成し、関係官庁、研究機関、大学、職業訓練所、木材業界などに配布し普及宣伝に努めた。

また、一般ユーザーを対象に講演会、展示会など数多く開催した。関係官庁、研究機関、学識経験者、一般ユーザーへ正しく集成材を理解してもらうよう努めた。

### 関東地区懇談会長

関東集成材懇談会は、日集協の実行団体であり、地方組織の中核として活動している。

2003年(同15年)に理事長に就任した。まずやることは、組合員の増強と活性化である。全国に員外集成材メーカーが散在し、なかには品質の問題のあるメーカーもあり、集成材全体の信頼を損なうことになる。員外メーカーに対して日集協に加入するよう働きかけを行った。

情報の交流、高水準の技術を確保し、大同団結して「共に集成材の需要拡大に努めようではないか」と呼びかけ、全国の員外メーカーを訪問し説得活動に注力した。すぐには理解が得られず、即効性はないうがこの活動は粘り強く続け、日集協の大きなテーマとして取り組まねばならない。

並行して、和室の減少などに伴う需要構造の変化で、需要急減が続く苦戦している造作用集成材の復権は、「新しい需要の開発にあり」とPR委員会の活動を強化し、その一環として日集協ホームページを立ち上げた。

集成材と鉄による複合集成材、即ち木質ハイブリッド集成材を開発、国土交通大臣の1時間耐火認定を取得し、第1号物件は金沢駅前のMビルに使用した。

新しいニーズに対応するためJAS法改正と並行して、法令の順守を原点に品質の向上、信頼性の向上、粗悪品との差別化を目的とし、組合による組合員生産品の自主検査を実施、品質の更なる向上に努め、組合員生産の集成材に対する信頼を高めた。

さらに、国交省の指針に基づき超長期200年住宅の耐久性調査試験を実施した。

1955年(昭和30年)代に建設された全国11カ所の建物の耐久性調査をした。この試験体の接着性能は全て合格し、集成材の耐久性を証明した。

2000年住宅には、構造材のみならず内部の住み心地の良さを、年代によるリフォームできる可変型のインテリアが求められており、ここに新しいニーズが生まれてくる。造作用集成材開発のヒントが潜んでおり、新需要開発に全力投球中である。

### 日集協理事長

### 海外視察・ブラジル

2007年(同19年)、BRIC諸国の筆頭資源大国であるブラジルを視察した。ユーカリ材の植林、森林の伐採現場、製材、集成材、合板の各工場を視察、将来の新資材として資源確認についての情報を蓄積し将来に備えた。

日集協理事長在任中には非力な私が何とか任期を務めることができたのは、役員の皆様はじめ関係者の皆様の支えを頂いた御蔭と深く感謝申し上げます。次回(9日付)は

(細田木材工業協会会長)